

小学校体育授業における

ハイタッチ・ファイトコールの活用に関する研究

林美有 (埼玉大学)

1. 目的

本研究では、ハイタッチ・ファイトコールを体育授業で活用することは教育的に効果があるのか否かを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

- ① 先行研究でのハイタッチ・ファイトコールの効果を明らかにする。
- ② ①を学習指導要領と照らし合わせ、ハイタッチ・ファイトコールの教育的効果を検討する。
- ③ 授業実践(小1「跳び箱運動遊び」)を行い、授業後の振り返りで出た子供たちの意見から、ハイタッチ・ファイトコールの効果を確認する。
- ④ 「ハイタッチ・ファイトコール活用アイデア集」の作成を行う。

3. 結果と考察

実践授業で児童から収集した感想や意見を、学習指導要領に記載されている指導事項ごとに分類した。ハイタッチに関しては表1に、ファイトコールに関しては表2にそれぞれまとめた。

表1 ハイタッチに関する感想

ハイタッチをした時の気持ち (2時間目 振り返りから)	学習指導要領の指導事項
嬉しい気持ち 楽しい	楽しさや喜びを味わう
一人でやるより楽しい	多様な人々を結びつける
あったかい気持ち 人のことがわかる(嬉しそう/悔しそう)	良好な人間関係を築く
頑張れる もっと頑張ろう もっとやりたい	最後まで努力して運動する態度を養う
自分すごいかも ちゃんとできた 自信が湧く	自己肯定感を高める
	助け合って運動をする
<その他> ・いいこといっぱい(自分も嬉しいし、相手もきっとそう、という意味で)	

2時間目の振り返りでは、ハイタッチをした時の気持ちについて子供たちに尋ねた。学習指導要領に記載されている指導事項のうち、楽しさや喜びを味わう、多様な人々を結びつける、良好な人間関係を築く、最後まで努力して運動する態度を養う、自己肯定感を高めるについては、子供たちからも類似した意見が聞かれた。

・ある児童は、「一人でやるより楽しい」と話していた。ハイタッチが人と人とを結びつけ、会話を

生み、学習をより楽しいものにしていったことが推察される。

・ハイタッチを行うことで友達が自分のことを褒めたり認めたりしてくれることから、「自信が湧く」「自分すごいかも」など、子供たちの自己肯定感の高まりが推察できる発言もあった。

表2 ファイトコールに関する感想

ファイトコールをした時の気持ち (4時間目 振り返りから)	学習指導要領の指導事項
約束事をしっかり守ろう (自分が)協力しよう	自己の役割を認識する
みんなで協力しよう 力を合わせるぞ (自分が)協力しよう	互いに協力する
頑張れる 頑張るぞ やる気が出た	自己の最善を尽くす
<その他> ・(ファイトコールを) やったことがなかったから楽しかった ・いい気持ち ・ワクワクした	

4時間目の振り返りでは、ファイトコールをした時の気持ちについて子供たちに尋ねた。ファイトコールでは、学習指導要領に記載されている指導事項である、自己の役割を認識する、互いに協力する、自己の最善を尽くすの全てにおいて、子供たちから類似した意見が出た。

・「協力しよう」「グループで力を合わせよう」と感じた児童が、用具準備の際に、自己の役割を認識し、積極的に動くことができた。

・ファイトコールについては、「生まれて初めて行った」という子供も少なくなかった。こうした子供たちにとっては、みんなで肩を組んで円になったり、声を揃えて掛け声をかけたりするだけでも新鮮で、とても楽しい経験になったことが考えられる。

4. 結論

ハイタッチ・ファイトコールを活用することにより、学習指導要領で求められている指導事項を授業の中で子供たちから引き出すことができると分かった。このことから、ハイタッチ・ファイトコールを体育授業で活用することは教育的効果があると推測できる。

5. 主な参考文献

文部科学省(2017)小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編。